

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの目につく場所に掲示している。 ・入居時にご家族にも説明している。 	○ ・今後も全スタッフが理念に向けて取り組んで行けるように努力していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランにもいれケアに取り組んでいる。 	○ ・スタッフの入れ替わり等あり、スタッフに周知できるように、理念が生かせるようなケアに取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方の訪問時や家族の方の面会時にも説明を行っている。 	○ ・地域の方々にも、グループホームの理解してもらえよう自ら地域との交流に足を向けていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を交わしたり等しているが立ち寄りの方は少ない。 	○ ・できるだけホーム外の方々に接していく機会を多く持てるよう努力していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・お寺の祭りに行ったり、地区の運動会見学に行ったり等して交流を持っているが、もっともつと交流を図っていく必要があると思う。 	○ ・気軽に取り組んでいけるよう自ら足を向けたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地区の老人会長さんにボランティアの依頼や交流を促している。	○	・運営推進会議等で議題にしているが、個人情報等のこともあり、きびしい面がみられるようになった。コミュニケーションをしっかりとりたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・昨年の評価を各々に反省にしたり今後の課題にしたりしている。 ・今回も昨年同様に一人ずつ評価してもらった。	○	・自己評価を社内研修にすることによってグループホームとはどんな所なのかが改めて理解できたと思うのでケアの中にかかしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・行政、家族、地区の代表の方々が真剣に取り組んでくださりとても助かっている。 ・家族会からホームへの作業等を一緒に取り組みたい等の意見があり、家族のホームへの参加が多くなった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・新しい事業所等へも行き、現状を聞いたり、相談できる機会が増えた。	○	・よい点を取り入れホームの質の向上につなげたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・パンフレットの掲示をしている。 ・7月末には行政で研修が行われる予定になっている。	○	・研修内容をスタッフにもおろして学ぶ機会を多く持っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会の場を持ったり、個人的に言葉のかけ等に対しては指導を行っている。	○	・言葉かけや接し方の気になる事に対しては都度注意をしている。 ・虐待について学ぶ機会をつくっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者自らに契約を結んでいる。 ・フォローを施設長で行っている。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族に不明、疑問点はないかどうか面会時には尋ねている。 ・信頼関係の構築に配慮している。 ・今後も代表自らが取組んでもらえるようにしていきたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり話を聞く機会を設けるよう努力している。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何でも尋ねられる、聞ける雰囲気づくりに努めていきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時には状況の報告を行ったり、スタッフの入れ替わり時には紹介を行っている。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4ヶ月毎に新聞を発行して顔を覚えてもらっている。（スタッフの写真入り）今後も続けていきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情を書けるよう設置箱を玄関に置いている。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不満、苦情の表せる様な信頼関係づくり努めていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者を交えての意見交換の場を設けている。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの意見を聞く機会を設けていきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの人数を多く揃っている所以对応できている。 ・ゆとりある人員の確保ができています。 	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>・合同でレクリエーションをしたりしてユニットの行き来を行っている。今後も続けたい。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	<p>・勤務のあいている者が交代で出席できるようにしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	<p>・今後、月に1回程度はレクリエーションや食事会などの場を持てるようにしたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	<p>・交流の場をふやしていく事も大切だけれど、その中で本当の意味での親密な信頼関係が持てるようにしていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・聞くことにより又課題分析（アセスメント）することにより受けとめている。	○ ・初期に本人との対話を多く持ち、全身状態の観察をしていきニーズを把握するようにしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入所時オリエンテーション又アセスメント聴取時対話の時間をつくりよく聞き受けとめる努力をしている。	○ ・不安なこと、求めていることを受けとめ詳細に記録していく→計画の修正。 ・ケース会議を行い、案を練っていくようにしていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・初期計画の中にサービス利用を含め対応している。	○ ・サービスを利用しながら、家族と（報連相）を行っていくようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・自席で静かにしている、又一人でテレビに熱中している職員や他の利用者に声かけを促すことにより、サービス（レク）等に参加できるように促している。	○ ・家族等との相談がまだ不十分、家族から情報を最得るようにしていく。 ・家族の支援、外出等により。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の長い生活歴の中から、本人の仕事又生活を通して私たちの生活の参考になる、そういうことを話しすることが、本人にとって生活の活性化につながっている。	○ ・本人の身体にふれること、ベッドサイドなどを取組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会時や、担当者会議の時を利用し、家族の気持ちを理解しようと接する態度や、話しやすい雰囲気をつくることで同じ思いを共有できるように努めている。本人と家族の絆の継続ができるようにプランにあげており、面会の依頼等はしている。	○	・家族面会ではできるだけ認知症の理解ができ、本人、家族との良い関係が保てるよう、関わっていききたい。 ・日常の生活状況の提供。 ・本人、家族、スタッフとの良い関係を築く。 ・家族会の時にパンフレットを渡したり、短時間の講話をした。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族と外出の機会を出来るだけつくっている。 ・家族の関わりの大切さを機会あるごとに話して理解していただけるよう努力しており、外出、外泊の機会をケアプランに入れている。	○	・病院受診等は、できるだけご家族同伴で行く様にして家族との関わりを支援している。今後も続けていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会時の情報収集と声かけ、病状や年齢による身体状況からなかなか支援できないが、家族の協力があると実施しやすい。	○	・家族への協力依頼。 ・家族の認知症理解への援助。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・レク等を利用し、会話の仲介等を行っている。 ・病状によっては、なかなかできない場合もある。	○	・各々のできること、できないことを把握し仲介できるよう続けていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・入院になったの契約終了がほとんどだが、退院後の状況や不幸時の見舞い等を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・無理強いはさけ、利用者本意に心がけている。 ・医師表示できる方は本人の意思を尊重している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・病状的に難しい面も多いが、本人の思いを引き出すような関わりと本人の意思決定を大事にしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時等に情報収集しているが、一人暮らし等の場合はなかなか把握できない事が多い。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源からの情報収集や連携を深めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間の情報の共有を心がけている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・把握しやすい記録の仕方。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族 → 担当者会議を利用したり、変化のある時は電話や来ていただき相談している。 ・スタッフ → 月1回のケースカンファレンス。問題があればその都度。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・途中で変更時の計画の統一の仕方と記録の（計画）徹底。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・1/月のモニタリング、1/3ヶ月の計画の見直しは行なっている。 ・入院状態の変化時も行なっている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・続けていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・計画に添った記録が不十分。	○	・計画に生かせる、モニタリングに活用できる記録の充実を記録の充実を図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族、入居者の要望は受け入れている。 ・外泊時の急な帰宅、急な外出、外泊。 ・F a 受診困難時のスタッフの同行。	○	・できるだけ家族との連携をとりながら、よりよい方法で支援。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアの方との交流は行いとても喜ばれている。 ・園児や学生との交流を図れるよう検討中。	○	・病状から、他との交流は困難な面も多いが現在、検討中を進めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・町内のケアマネジャーや管理者との会合の場を設けており、情報収集はしている。 ・状況の急な変化等は地域包括・家族と会議の場を持ち病院のケースワーカーに支援方法等を相談している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・普段から情報交換を密にし、連携を図っている。 ・運営推進会議や1/月回の町内事業所との会議。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・病院への情報提供（TEL、文書）。 ・必要に応じ同行で受診。 ・家族の都合によってはスタッフ付き添い受診。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・家族、医療との連携を取りながら本人にとってのよりよい受診。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・病院への情報提供（TEL、文書）。 ・家族への情報提供（面会時、受診時）。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・家族、医療との連携を取りながら本人にとってのよりよい受診。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関の看護職員や医師との連携を図りながら管理をしている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も医療機関との連携を密にしていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> ・入院の際は度々面会に行き、状況の確認や今後の見通しについて医療機関の連携を図っている。 ・退院の目途がいたら、医師、家族ソーシャルワーカーを含めて今後の治療方針、GHでの生活について話し合う場を持っている。 		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の面会時、担当者会議を利用し、意向をきいている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族の意見を取り入れていきたいが、課題も多い。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・今後予期出来ることや非常事態について計画作成や勉強会等でどう対処するかは比較的周知していると思われる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケア等の勉強会には参加している。 ・スタッフ全員が周知できる様に他のホームへの研修や取り組みの実態を学んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・日頃から、交流を図り顔見知りとなるよう合同レクを行なう。 ・入居前は見学。	○	・スタッフ、入居者の交流を図る事で、皆が把握できる状態をつくれたらと思う。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・トイレのドアは閉める。 ・相手の気持ちを考えた言葉かけ。（大きい声でははざかしい問いかけなどしない。）	○	・相手の身になり接する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・自己決定の場をつくる。 ・おやつ、食事を選ぶ選択メニュー ・洋服を選ぶ。 ・日中の過ごし方（レクの参加等）	○	・自分で決定できる場をつくる。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・レクや体操の声かけと本人の意思確認。 ・声かけ時、無理強いはいしない。 ・好きな事ができるよう支援。	○	・本人の意思を尊重。 ・相手の立場で考える。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・家族への働きかけ。 *外での理容、美容できる方は外出の形で 行なっていただく。 *衣類の入替、不足分の連絡。 *整容の声かけと援助	○	・家族が積極的に介入されるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・個々に合わせ、ゆったりと食事の時間を過ごしている。入居者と職員で食材の皮をむいたり、切ったりと一緒に準備している。	○	・食事をテラス等、外でゆっくり食べる機会を増やし、楽しい時間を提供していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・たばこ、酒を嗜好としている人はいない。 ・おかしや飲み物は、3時のおやつ時間に提供している。	○	・おやつ作りを皆で体験して楽しみたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・一人一人の排泄パターンに合わせて声掛け、トイレ誘導し失禁を減らしている。	○	・失禁減少していくために、スタッフ一同になり、随時声かけトイレ誘導していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・本人が入浴したい時には、曜日構わず入浴してもらっている。 ・入浴剤を使って楽しんだり、入浴は気分に合わせて入ったりされている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・休みたい時には、和室や居室にて自由にゆっくり休んでもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・日中は、レクや気分転換に散歩に行ったりと過ごし、家事やそうじを一緒にしている。	○	・家事や掃除はできる人にはしてもらっている。楽しみをもっと増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・必要物品など家族にお願いして持ってきていただいている。</p>	○	<p>・個々の小遣い帳をつくり、月に1回くらいの買い物日を決めていきたい。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・一人一人の希望にそわないところもあるが、体調や天候などに合わせて戸外に出る機械を多くしている。</p>	○	<p>・地域との交流をはかり気軽に立ち寄れる場所を作っていきたい。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>・他の利用者と一緒に出掛ける事がほとんどで、家族への連絡も行なっているが出席はない。</p>	○	<p>・家族の希望も取り入れながら参加協力を呼びかけていきたい。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・年2回、年賀状、暑中見舞い出せるようにしている。電話は家族の了解も得られていて、いつでもかけられるようにしている。</p>	○	<p>・家族からの電話や手紙等もしていただくようにして理解を深めていきたい。</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>・時間の規制はしていない。</p>	○	<p>・レクの時間や食事の試食会等、一緒に過ごせるような工夫をさらにしていきたい。</p>
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・していない。</p>	○	<p>・今後も身体拘束をしないケアに取り組んでいきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>・見守り不足にならない態勢をつくっていききたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>・安全面に関しては配慮すべき点があり、スタッフ間の連携を図る。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>・利用者の立場にたって考えていきたい。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>・ヒヤリハットを書く事で防止策もたてやすく、事故も未然に防げる。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>・全ての職員が対応できるようにしていきたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>・避難訓練の回数を多く増やし、地域の人々の協力を得られるようにしていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子走行、手引き歩行の誘導見守り。 ・起こりえるリスクは面会時、会議時に説明。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・考えられるリスクの早目の対策。 ・見守りの強化で本人への抑制を軽減。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもの事。以前と一緒にという言葉は簡単に使わない。常に体調の変化や異変は真摯に受け止める。急変時の連絡。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・体調の変化の早期発見は、わずかな事にも見逃すことなく情報の共有を提供し合い適格な介護の改善に努力したい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服用する薬の種類も多く長期にわたりがち。 ・複数の薬の相互作用に配慮が必要だと思われる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬が確実にこなされるためには、本人が薬を信頼出来るように援助すること。 ・自覚症状などを訴えやすいよう配慮すること。 ・氏名の確認を行なう。 ・副作用についてもわかる様に学んでいきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・献立の内容の研究、利用者の嗜好に合うとは限らないため説明や工夫。 ・ストレスによる便秘が起こりうる場合も考え、明るく楽しい食生活を適切な言葉かけなどでうながす。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の排泄管理と体動を行なう。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食後の口腔ケアは毎食後実施している。時に拒否も見受けられる無理強いはいしない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・拒否無きよう出来るだけ清潔を保った状態を個人の性質を考え支援したい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・水分量の必要な利用者は、それなりに摂取を勧めている。利用者の好きな水分質を採求したい。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症を防ぐ為にも水分の多い食品を勧め、提供する。 ・毎日の摂取量のチェック。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・食後の口腔ケア、トイレ後の手洗い等行なっています。後、変化ある時はすぐに報告するように心掛けています。	○	・口腔ケアは皆実行していきたい。 ・失禁時、特に大便の時の汚物処理の場所がほしい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理用具の扱い等、特に気をつけて行なっております。手洗いや、不潔になりやすいまな板は肉や魚等扱った後は薬品にて消毒しています。	○	・これから夏に向けて野菜類の保管に気を付けたい。あまり多く買い過ぎない様にする事も大事。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・明るく清潔にするように心掛けています。花を植えたり、季節の変化にも考えて工夫している。	○	・玄関廻りは、余計な物を置かない事も大切。靴をはく時、イスの必要な時があるので考慮していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間には季節毎の飾りつけは心掛けられている。 ・音はテレビが大半である。	○	・テレビやCDの音も雑音にならない大きさに配慮していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・一人一人の居場所作りは、目が届かない事もあり、一目で見渡せる所で過ごしてもらおう事が多い。	○	・身体の傾きがある人もいるので、一人用のイス（ソファ）もあって良いと思うので、自宅から持ってきてもらったり等、検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・自宅で使用されていた、家具など持ち込まれ使 用されている。	○	・日中居室で落ち着いて過ごせる様、畳など入 れ、可能な限り茶たくなどの配置を行ないたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・常に温度調整には気を付け換気を行なう様にし ている。 ・エアコン、暖房などこまめな調節をしている。 ・一日一回は、居室の換気を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・廊下には手摺りがあり。フローアは車椅子可能 な配置を行なっている。	○	・トイレに手摺りはあるが、転倒防止のレバーが ないので設置を考えたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・一人一人のペースに合わせ、トラブル回避に努 め、安心して過ごして頂く環境づくりを行なっ ている。	○	・個人の出来る事、出来ない事を見出し援助を 今後も行なって行きたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・園庭には花壇があり、椅子の配置もある。野菜 を作れるスペースもあり、現在ねぎなど植えられ ている。	○	・季節毎の野菜作りを行い、収穫の喜びを味わっ て頂ける活動を行なって行きたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）